

会報紙

あんしん地域見守りネット ニュースレター 「第3号」

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人 あんしん地域見守りネット

編集：地域連携チーム(代表 谷口 起代)
編集長：倉田 久
レイアウト：斎藤 正史

事務局：地域活性化センター松戸(運営：NPO法人 CoCoT)
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445 FAX. 047-369-7445

～一般財団法人 YS 市庭コミュニティ財団助成事業～

協賛：(公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団

【定年退職者は「つらいよ」】
転勤族として各地を転々とし、地域活動に参加することもなく、定年後の居住地で顔見知りはずか・・・これが一般的な定年退職者のイメージだろう。私の場合は、最終の向先(老人ホーム)での仕事の関係で「あんしん地域見守りネット」でお手伝いをするようになったが、地域活動の中核として活躍するメンバーと異なり地域活動は未経験。このままではいかんと思いつつかけがつかめないのが正直なところだ。

【ワンテーマ飲み会】
ちよっとお酒も飲みたいな。でも地域

【地域活動未経験者の戸惑い】
地域連携チーム 倉田 久
「地域活動と介護予防の関係」によれば、地域活動に参加している高齢者は不参加の人と比べ要介護になる割合が低く認知症発症リスクも低いとされている。しかし、この春定年を迎えサラリーマン生活にピリオドを打った自分にとっては、地域活動への参加に興味はあるものの結構ハードルが高く思える。

【居場所のフリーマーケット】
そこで思い出すのが、大学の新生を対象としたサークル紹介、部員募集桜舞うキャンパスで繰り広げられる光景だ。若さとエネルギーは欠けるが、興味と好奇心を持つシニアがとりあえず顔を出せるスペース。喫茶スペースでもいいし、青空の下でのテント村でもいい。様々な活動を行っているグループのいわばフリーマーケット。ここで「食堂」「シニア食堂」「学童保育」「健康体操」・「広報まつど」にも様々な活動が紹介されているが、参加している人たちの年齢層や雰囲気もわかるし、気軽に活動内容なども聞けるのも魅力だ。また、「樹木の剪定」「決算に伴う会計処理」「講演会のテブ起し」など単発の人材募集でもよい。スキルをもちながら手持無沙汰の人も、自分の興味とマッチする居場所が見つけれられるかもしれない。

「地域活動と介護予防の関係」

- 学習・教養サークル参加割合低いと 認知症リスク高い
- 社会参加10%増加で、要支援・介護認定率5%減少

(出典) 日本老年学的評価研究 JAGES松戸プロジェクト1年間の振り返り 2017年2月

【シニアサロン「かけはし」】
地域デビューの指南役がいるサロンも考えられないか。いろんなサークルや市民団体と交流を持っているコディネーターが客の地域デビューをサポート。その人のキャリアやスキル、思い、興味などをもとに、個人とグループ活動をつなぐ「かけはし」となる(同名のお店があったら、ゴメンナサイ)。それにはコディネーター機能を果たせる「日替わりママ(マスター)」が必要となるが、なり手はいないだろうか。自分の悩みをくどくど書いてしまつたが、まずは他力本願でなく、自分自身で模索することしよう。

【ベッドタウン松戸】
松戸はベッドタウンであり、都心へ通勤するサラリーマンは多く、そして

大忙し。毎月のようにどこかで説明会を開催している様に、当時の理事の一人が「まるで、シニアのクラブ活動がはじまった」と笑顔で語る場面もありました。

【定年退職者は「つらいよ」】
転勤族として各地を転々とし、地域活動に参加することもなく、定年後の居住地で顔見知りはずか・・・これが一般的な定年退職者のイメージだろう。私の場合は、最終の向先(老人ホーム)での仕事の関係で「あんしん地域見守りネット」でお手伝いをするようになったが、地域活動の中核として活躍するメンバーと異なり地域活動は未経験。このままではいかんと思いつつかけがつかめないのが正直なところだ。

【ワンテーマ飲み会】
ちよっとお酒も飲みたいな。でも地

き出しました。こうして2017年4月、「非営利型一般社団法人あんしん地域見守りネット」が発足したのです。

【シニアサロン「かけはし」】
地域デビューの指南役がいるサロンも考えられないか。いろんなサークルや市民団体と交流を持っているコディネーターが客の地域デビューをサポート。その人のキャリアやスキル、思い、興味などをもとに、個人とグループ活動をつなぐ「かけはし」となる(同名のお店があったら、ゴメンナサイ)。それにはコディネーター機能を果たせる「日替わりママ(マスター)」が必要となるが、なり手はいないだろうか。自分の悩みをくどくど書いてしまつたが、まずは他力本願でなく、自分自身で模索することしよう。

地域見守り活動の歩み(第3回)

全国的にも珍しく町会等の地縁組織が率先して「あんしん電話」を取り入れてきた松戸市内の地域見守り活動。前身では、「あんしん」の前身である「地域見守り連絡協議会」が立ち上がるまでの道のりを掲載しました。本号では、この任意団体が法人格を取得し、「非営利型一般社団法人あんしん地域見守りネット」となるまでの道のりを掲載します。

【「あんしん電話」の軌跡をたどる(その②)】
それまで交流目的のゆるやかな集まりだった連絡会は2014年4月、「あんしん電話」を松戸全域に拡げられるように市と交渉する力をもった組織をつくる」とこと「新規導入のサポートをする」という明確な目的を持って「地域見守り連絡協議会」として再スタートを切りました。会長・副会長、顧問を選任し、事務局はNPO法人CoCoTが請負い、松戸市医師会からの後援もいただき、基盤整備した組織体制のもと、活動は大きく展開していきます。2015年3月、松戸市が「あんしん電話」による見守り事業に補助金を出すことを決定しました。2015年7月には「ちばぎんハートフル基金」より助成金を受けられることになり、ますます活動は活気づきます。チラシやのぼりを作成して、地区社協主催の「ふれあい広場」や各地域の夏祭りでもブース出展、精力的に「あんしん電話」の宣伝活動を行いました。その成果もあって新規導入の相談が各方面から舞い込みはじめ、理事たちは導入説明会の実施に



メディアの記者会見 (2016年8月)

大忙し。毎月のようにどこかで説明会を開催している様に、当時の理事の一人が「まるで、シニアのクラブ活動がはじまった」と笑顔で語る場面もありました。活動を外へ外へとひろげるだけでなく、組織内の力をつけることも取り組みました。2016年度は推進会議を設置。月一回の会合を重ね、制度の動向やセーフティネットづくりの方策を練る学習会を開催、その中で法人格取得の話も議題にあがるようになります。2016年7月にWAMの助成が決定し、9月からフリーダイヤル「松戸あんしん電話ほっとライン」をスタート。メディアからの取材が増え認知度も高まり、相談件数も増えました。これが後押しとなって「あんしん電話見守り事業」を着実に安定的に継続していく必要性が顕在化し、クラウドシステム開発と法人格取得へと動

年	月	出来事
2014	4	「地域見守り連絡協議会」として組織体制確立準備。会長、副会長、事務局、顧問の選任。松戸市医師会の後援を受ける。
	3	松戸市が「松戸市医師会」を介して、あんしん電話の見守り事業に補助金の支出を決定。
2015	4	「松戸あんしん電話地域見守り協議会」として正式発足。
	7	「公益信託ちばぎんハートフル基金」より助成金を受ける。
	4	組織体制強化を図り、推進会議を設置。
2016	5	平成27・28年度版 松戸市認知症ケアパス(高齢者支援課作成に「あんしん電話」の案内が記載される。
	6	第1回 総会
	7	WAM*よりフリーダイヤル設置事業への助成を受ける。
	9	フリーダイヤル「松戸あんしん電話ほっとライン」開始。クラウドシステム開発開始
2017	4	「非営利型一般社団法人あんしん地域見守りネット」発足。松戸駅前NPO法人CoCoTと共同事務所開設。
2019	6	組織体制の見直し、地域連携チーム発足。

* WAM (独立行政法人福祉医療機構)



馬橋ふれあい広場 (2017年10月)

会員募集のご案内

「(社)あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしております。

正会員(団体) 5,000円(1口以上)/年
正会員(個人) 2,000円(1口以上)/年
賛助会員(団体) 20,000円(1口以上)/年
賛助会員(個人) 10,000円(1口以上)/年

振込口座： 千葉銀行松戸支店(普) 4277609
口座名義： 一般社団法人あんしん地域見守りネット

Facebook: @anshindenwa 「あんしん電話」
E-mail: info@genkiosiete.com

【編集後記】
コロナの深刻化に伴い、「孤立・孤独」の問題がクローズアップされています。ヤングケアラーの深刻な状況もデータとして示されました。高齢者に限らず、あらゆる層で不安を感じている人が増えていることを改めて感じます。あんしん地域見守りネットの活動には、様々なメンバーに参加いただき支援をいただいています。多様な分野で人と寄り添う活動を展開している主体が、知恵を出し合いノウハウを共有化することで活動をより活性化していくことが求められています。「かけはし」が地域活動の担い手や利用者を横断的につなげる上での一助になればと思います。

コロナ禍の中での地域活動

三度にわたる緊急事態宣言発令やまん延防止措置適用など厳しい環境での活動が続きます。そんな中でも、オンラインやネットを活用するなどして新たな取り組みが生まれています。

「ゆるやかなつながりの大切さ」

NPO法人 石川 静枝 さん

コロナ禍の状況の中、団体の活動がままままお弁当の宅配等で継続しています。第2月曜日はどなたでも参加できるさんま広場・さんま食堂で当初10食ぐらいから始まり、今は約80食に増えています。地域のボランティアさんにもメニューをはじめ調理も協力いただいています。第4月曜日はひとり親応援DAYとして地域の飲食店との協力で、お弁当約50食の提供。外出の制限などから孤立しがちな子ども・子育て家庭に何かできる事として考え始めましたが、見えていなかった現状を知ることができたりと、今後いろいろな形で「つながり」をつくっていく可能性を感じています。

また、核家族が進み近所付き合いが希薄になっている昨今、子育てに悩んでも誰ともつなげられず、悩み、追い詰められた果てに悲しい事件につながってしまうケースも少なくありません。たくさんある情報が必要な方に届

まっどで つながる プロジェクト



かない、届きにくい、わかりにくいという現状も否めません。社会全体が目を向け見守り、声をかけることで、子ども・子育て家庭に笑顔を増やすことができるはず。『つながり』の大切さを訴えるため、休眠預金の助成金を受託し、「まっどでつながるプロジェクト」も立ち上げました。このプロジェクトは市内の3団体で（NPO法人 MamaCan、特定非営利活動法人 まっどNPO協議会、NPO法人さんま）、子どもや子育ての孤立予防を通して「誰もが共に寄り添い、自分らしく生きられる社会」の実現を目指しています。

ケーブルTVで各居室に ライブを放映、 ユーチューブで配信も

有料老人ホーム 松戸ニッセイエデンの園

緊急事態宣言発令やまん延防止措置の適用を受け、イベントの開催やサークル活動ができない状況ですが、無観

客でのコンサートなどを開催し、ご入居者の居室へステージの模様をライブ放映しています。また寄席やバンド演奏については、後日ユーチューブで配信を行い、地域の方にも楽しんでいただくことができました。



大道芸人 KAYA さん



歌声の部屋 (金子 将さん 隅谷 洋子さん)

アカペラなど、それぞれの居室でお楽しみいただきました。また、ピアノと歌のアンサンブルでは、事前に演奏曲目、歌詞カードを配布しステージの歌声にあわせて、居室でみなさんにも歌っていたたく催しとしました。コロナ禍でご入居者にはご不便をおかけしていますが、ほんのすこし気分転換をくれたのなら幸いです。

ほっとラインNOW

昨春秋、高齢者支援課の協力で高齢者支援連絡会に「かけはし」と「あんしん電話の概要」を配布したところ、新松戸地区の民生委員の方から、「コロナ禍で、気にかかる人はいるのだけど、今までのような見守りや訪問はできなくなりました。先日、配布されたチラシを見た。私がお近所見守りをするので、あんしん電話をかけてもらえようようにしてほしい。」と連絡があった。ご自分が担当している独居高齢者に、「あんしん電話」のチラシを配布し、加入を勧めたところ、加入希望の本人からほっとラインに申し込みがあった。「自治会の方に勧められてね。体操教室の友達と一緒に入ることになったの。うれしい。みんなに迷惑をかけないよう、気を付けて元気で暮らしますから、よろしくお願いしますね。」

国土交通省住宅セーフティネット機能強化推進事業
アパートが見つからない。生活が不安。一人暮らし。日々の暮らしの相談窓口
居住支援相談/あんしん電話の申し込み
あんしんほっとライン
0120-386-117
月～金 10:00～16:00

超高齢社会、ゲームで体験 地域課題の解決を 考えるきっかけに

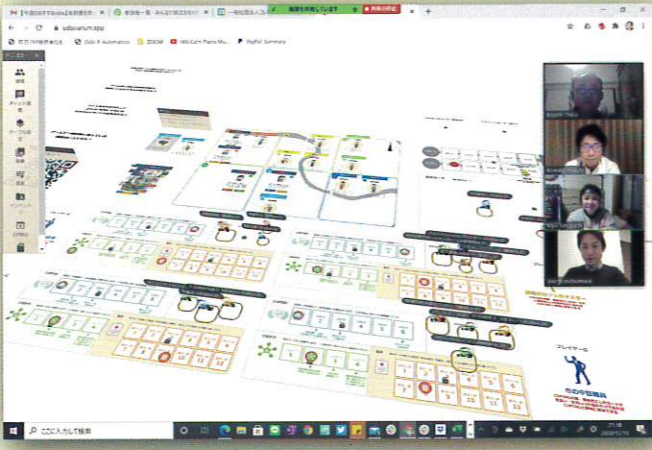
コレカラ・サポート 千葉 晃一

私たちコレカラ・サポートは昨年1月、地域課題の課題解決を多くの方に考えてもらうきっかけとして、超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」を開発し、オンラインでの体験会を実施しています。

私たちは2011年4月、東日本大震災を経て、弁護士、社労士などの専門職を中心としたメンバーが、高齢者やそのご家族の相談支援をワンストップで行う目的で活動を開始しました。近年、一人暮らし、老々世帯、頼れる親族のいない人など、地域の中で孤立する人が増えてきており、コロナ禍でそれが増々顕著になってきています。

そこで、地域で「何か人の役に立つことがやってみたい」という人を巻き込むことで、問題を解消できないか？と考えるようになり、まずは、そのきっかけ作りを「何か楽しめる方法で」と考えていた中、仲間から「ゲームはどうか」と提案があり、ゲーム開発に着手しました。

超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」は、高齢化に伴い地域の中で支援が届かずに悩みを抱える人に対して、プレイヤー同士が連携し、人や地域資源をつなげることで、地域



松戸の地域活動メンバーでゲーム体験！

住民の悩みを解決していく協力型ゲームです。コレカラ・サポートが相談事業で培った経験を活かし、住民の「悩み」をはじめ、「聴くことではじめて本当の悩みがわかる」という要素と、「つながりを処方する」という社会的つながりの重要性を表現したことで、ゲームがよりリアルなものとなりました。2021年4月現在までにオンライン体験会にはこれまで約1200人が参加。ゲーム終了後には振り返りの時間を設けることで「住民がつながり協力する大切さを再確認した」と反響を呼び、教育現場や職員研修で使いたいとの声

新型コロナウイルスの影響で、まずはオンライン版でのスタートとなりましたが、現実でもつながりをつくれるよう、クラウドファンディングで資金を募りボードゲーム版を製作。7月からオンライン版と併用でリアル体験会を開催する予定です。

あねっとピックス

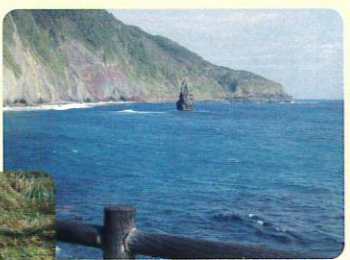
このコーナーでは通常「あねっと」の事業の報告をしてきていますが、今回は、あんしん電話利用者であり、毎回かかってくるのを楽しみにしている白石さんに、「コロナ禍でどのようにお暮らしになったのか」お尋ねしてみました。

白石さんは利用者の視点から、「あねっと」に初期の頃から会員としても関わり続けてくださっています。今回、私たちがからの問いに対して、地元松戸の自転車屋さんやサイクリングが好きで、人達からなる市民活動仲間と、コロナ禍でも活動を継続して行こう！ということで企画した伊豆大島へのサイクリングについて寄稿してくださいました。

「伊豆の大島から見る富士山も いいものだ！」

白石 英雄

緊急事態宣言が解除された10月末、友人たちと、伊豆大島へサイクリングに出かけた。早速、自転車の前輪を外し車に積み込み込んだ。竹芝桟橋を出船し、お台場・レインボーブリッジを通過する。夜景は見事である。就寝前の友との語りも良いものだ。



筆島



地層切断面

夜明けとともに岡田港へ。自転車を組み立て、いざ出発。大島一周道路右廻りのコース(52km)である。10数キロ走り見えてくるのが筆島だ。その形が筆の穂先に似ていることから名が付いた高さ30mの岩礁である。さらに見えてくるのが、都はるみの「アノ椿は恋の花」で唄われた波浮の港である。鵜飼商店でコロッケを食べるのも楽しみだ。次は地層切断面。思わず見入ってしまう大きさで長さ600mにわたって溶岩層が交互に重なり、150万年もの昔から、幾度となく数えられてきた三原山の噴火でできたといわれている。自転車は、足腰を鍛えることができ同好の友人も生まれる。一緒に始めませんか？